



南アフリカ共和国からの便り



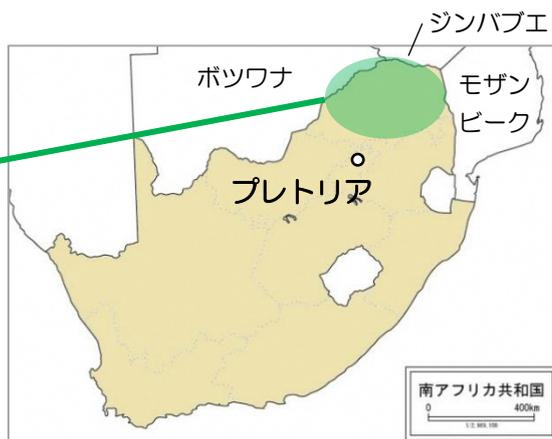
南アフリカの学校 編

2019 年度青年海外協力隊
赤塩健太 小学校教育 No.5

私は、南アの先生たちが勉強しに来るセンターで働いているので、学校の様子は詳しく分かりません。そこで、南アフリカの学校で活動している他の青年海外協力隊員に話を聞いてみました。今回はそれを紹介いたします。リンポポ州の学校で活動中の二人の隊員です。

Limpopo Province- リンポポ州-

人口：約 540 万人（岐阜県の人口は約 200 万人）
面積：約 13 万km²（岐阜県の面積は約 1 万km²）
黒人が人口の9割。モザンビーク、ジンバブエ、ボツワナの3カ国に国境を接しています。



No.1 楠本隊員 小学校教育

Gogogo Primary School (小学校) で、算数を教えています。



No.2 山下隊員 数学教育

Vele Secondary School (中高一貫校) で、数学を教えています。

Q.南ア学校の驚いた点を教えてください！

道具や施設が十分でないことです。理科室や図書室はありません。床のタイルが剥がれていたり、窓ガラスが割れたままになっていたりしています。時計すらないので、腕時計をもってきている子がチャイムを鳴らしています。子どもたちは教科書を持っていなくて、学校から貸し出されています。毎年使うのでボロボロです。また、体育・家庭科・音楽などの授業はありません。先生が時間通りに授業に来ることはあまりなく、授業中に先生の会議があって、子どもが遊んでいるなんてこともあります。

日本に当たり前にある物がないことです。電子黒板やカーテンなどの物から、体育館やプール等の施設、部活動や体育・音楽の活動、担任の先生もない！トイレの便座もありません。黒板は古く、チョークもすぐ折れるので使いづらいです。日本の学校は物に恵まれています。そんな中でも、子どもたちは一生懸命勉強しています。私の家に勉強を聞きにくる子もいます。

もう一つ驚いたことがあります。ゴミのポイ捨てです。学校にたくさんのゴミが落ちています。ポイ捨てをしても怒られません。



教室の様子



黒板とゴミ

Q.南ア学校のいいな、と思う点はどんなところですか？

子どもたちの目がキラキラしていることです。気持ちを素直に出してくれて、「会えなくてさみしかった。」なんて言われると、嬉しくなります。



学校の子どもたち

子どもたちがとにかく元気なことです。ノリがとてもいいです。また、子どもたちは先生たちをととても尊敬しています。質問を先生にどんどん聞きにくる姿はとてもすてきです。

また日本と違って先生たちはお昼ごはんの時間になるとみんな同じ場所で食事をします。お家にいるような感覚で、とても落ち着きます。

Q.お二人の願いや抱負はありますか？

子どもたちを多方面から、伸ばしてあげたいです。私の学校は、色々な教科や行事、放課後のクラブ活動などはありません。勉強が苦手だと、活躍する場がありません。日本のような、他に楽しさがある学校のシステムはいいですね。本を導入したり、地域と触れる活動をしたりできたらな、と思っています。また、礼儀等はなかなか教わらないので、そういった指導も引き続きしていきたいと思います。道具や設備、先生を変えていくことは難しいのですが、自分のやることを見つけて活動していきます。

南アフリカには、留年があります。これは、テストで決められた点をとらないと上の学年には上がれないという制度です。私は「受け持った子どもたちは全員進級させたい」と思って、毎日数学を教えています。

次に、学校のまわりに落ちていたゴミをきれいにしていきたいです。そのために、ゴミを平気でまわりに捨てる子どもたちの気持ちも変えていきたいです。



左上:町の景色
 右上:町の至る所で牛を見かける
 左下:表彰を受ける子どもたち



左上:教室の様子
 右上:どこでも牛がいる
 左下:山下隊員の家に来て、自主学習をする生徒たち

